

喜界島ジオパーク(構想)における 島民のジオパーク認知向上に向けた取組

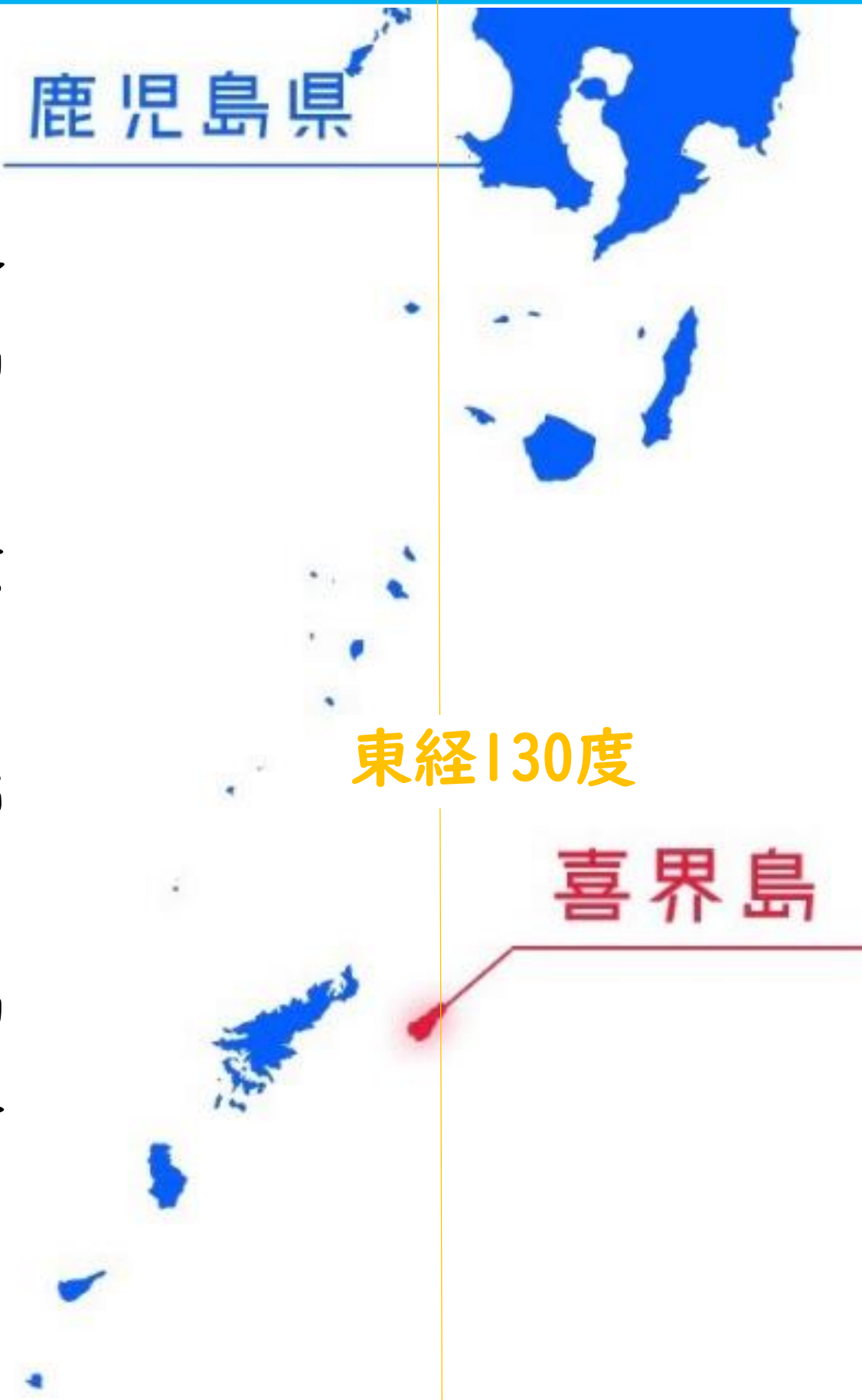
上地義隆¹⁾・土屋純子¹⁾・鈴木倫太郎¹⁾・²⁾

¹⁾ 喜界島ジオパーク推進協議会事務局 ²⁾ 喜界島サンゴ礁科学研究所



① はじめに

喜界島は、世界でも屈指の隆起速度を誇り、10万年前に海面下で形成されたサンゴ礁が200mの高さに位置します。それ以下には、各年代の隆起サンゴ礁段丘が発達しています。2023年に喜界島ジオパーク推進協議会が設立されましたが、島民におけるジオパークについての認知度が低い状況にあります。ここでは、喜界島のジオパークの認知向上に向けた様々な取組について紹介します。



② 公民館講座における一般向けジオパーク学習

島の自然や大地の恵みを体感しながら学ぶ、一般向けジオパーク学習プログラムを提供しています。



サンゴの学習後に現地でサンゴを観察する体験



ゴマの栽培に関する学習後にゴマの収穫体験

③ 「サンゴの石垣」の修復

サンゴの石垣は、喜界島のサンゴ礁文化の象徴です。その石垣を守るため、小学校の総合学習や公民館講座の場で、地域の方々が協力して、石垣を修復する活動に取り組んでいます。



④ ジオパーク給食

「ジオパーク給食」は、島の有機野菜などの食材や、伝統的な料理が登場する際に実施する給食です。島の児童生徒が、島の大地の恵みと文化を味わって学ぶ楽しく美味しい取組です。



⑤ 小中学生のジオパーク学習

小学3年生以上の児童と中学生を対象に、ジオパークの取組と島の自然・成立ちを学ぶプログラムを今年から導入しました。講師は喜界島サンゴ礁科学研究所の研究員が務めています。



⑥ 防災訓練での講話

防災訓練において、住民の防災意識向上の場として、消防や警察の講話と共に、集落に関連する災害と地形地質の関係についての「ジオパーク講話」を提供しています。



早町地区(早町・白水・塩道集落)防災訓練

⑦ ロゴマークの公募と選定

2023年6月喜界島ジオパーク(構想)のテーマは、

輝く海で生まれるサンゴ礁

上昇する大地

人はその恩恵を育む

「10万年の奇跡」

喜界島ジオパーク(構想)



喜界島ジオパーク(構想)

に決定しました。その後、このテーマに基づくロゴマークの公募を行い、審査の結果、ロゴマークが選定されました。

⑧ 広報きかいでの発信

町から毎月発行している「広報きかい」は、島内外へ配布、発送されています。その広報誌において、喜界島ジオパーク(構想)の活動や関連するトピックを「月間ジオパーク」として紹介しています。



喜界町の広報誌「広報きかい」→

⑨ 今後の展望

喜界島ジオパーク推進協議会は、2024年以降に日本ジオパーク認定を目指しています。現在、島民のジオパークに対する認知度は低い状況であり、ここでの取り組みを継続・発展させて、島民の認知度向上とジオパーク活動への理解を促進します。さらに、島民が積極的に参加できる機会を創出し、ジオパークへの島民参画を促進していきます。